

人間行動学研究室

総合学術研究科・人間学部人間学科

教授 伊藤 康児 (いとう・こうじ)

大学院担当科目：人間行動学特論

専門分野：教育心理学、老年行動学

研究室：天白キャンパス・タワー75・
12階・1203室

電話：代表 052-832-1151(内線 6723)

直通 052-838-2471

f a x : 052-833-5524

e-mail : kohji@ccmfs.meijo-u.ac.jp



人間の行動は、本人のもつ安定した特性と、本人を取り巻く文化的社会的環境との相互作用により規定されます。本人の安定した特性といっても、年齢を重ね、経験を積むうちに少しずつ変わりますし、文化的社会的環境はもちろんさまざまに変化します。人間行動学は、とらえにくい人間の行動を心理学の立場から科学的にとらえ、行動を手がかりに人間の心理に迫ります。また、人間の行動や心理と人間を取り巻く文化的社会的環境とのかわりを探究します。

人間行動学研究室では、主に下記のような研究課題について、相互に交流しながら探究しています。

1. 教授学習過程の研究

学校、家庭、地域社会で展開される学習活動を教育心理学の観点から研究します。生徒や学生が学校で協力しあって学習する協同学習の研究、地域の学習活動の拠点のひとつである博物館における来館者の学習スタイルの研究を教育心理学の立場から行っています。

2. 高齢者の意識と行動

博士後期課程で学ぶ社会人大学院生と共同で、自宅に閉じこもりがちな高齢者や施設で

生活する高齢者の意識や行動を調査し、心身ともに健康な生活を維持できるような看護師・保健師の支援活動や行政の施策について提言を行うべく、研究を深めています。

3. 視覚情報処理

岐阜県可児市にある名城大学大学院・都市情報学研究科の大学院生と共同で、ものを見る働きの研究も行っています。

4. 接続教育の研究

比較的新しく取り組み始めた研究です。中学校・高等学校・大学と進学するたび、生徒や学生はともすると学習活動の違いに戸惑いがちです。スムーズに学校間を接続する教育のあり方を理論面・実践面から探究します。

5. 環境意識を高める学習教材の開発

わたしたちを取り巻く自然環境に目を向け、これを大切にしようとする気持ちを育てるための教材作り研究を始めています。

大学院生の受け入れ

以上のように、人間行動を幅広く探究しています。伝統的な学問体系に収まりきれない問題意識をもつ方の研究を応援します。